

# 千葉大学法政経学部 同窓会会報

第 30 号

2024年3月 発行



## <目次>

ご挨拶	P.1
同窓会からのお知らせ	P.3
特集① 祝・司法試験合格!	P.5
特集② 千葉大で学んだ音楽家たち	P.7
特集③ 日本の伝統文化を伝える人々との出会い	P.8
千葉大学・法政経学部トピック	P.10
同窓会役員紹介	P.12

## 「聞く力」を磨いて



千葉大学法政経学部同窓会長  
渡辺 雅隆

コロナで閑散としていた京都の街はいま、戻ってきた観光客でごった返しています。昨秋、紅葉には少し早い京都市内のお寺で本学の関係者とお会いし、中山俊憲学長の話をしました。まさにその日に学長が死去されていたことをあとで知り、驚きました。「研究を通して課題解決型の人材に育ててほしい」と、学生たちへの期待を繰り返し語っていた学長の思いに共感していただけに、残念でなりません。心よりご冥福をお祈りいたします。

昨年10月末、同窓会総会・講演会イベントを西千葉キャンパスで開催しました。佐藤栄作・前学部長の講演のあと、歴代の同窓生から吉田雅一さん（千葉県知事特別秘書・同窓会副会長）、櫻田寛子さん（公認会計士・同窓会理事）、丹野大輔さん（弁護士）にご登壇いただき、在学時の思い出や進路を決めた理由などについて語っていただきました。ご参加いただいたみなさまに厚く御礼を申し上げます。同窓会HPでは先輩方から在学中のみなさんへのメッセージなども募っています。ぜひ、ご協力をお願いします。

「笑門来福——ウクライナやパレスチナの凄惨な状況を憂っていたら、国内では政治家たちの集団裏金疑惑が飛び出しました。笑っている場合ではありません（略）。さて、2024年はどんな年になりますか」

今年の年賀状に、そう書きました。

そして、元日。夕方、京都府南部にある自宅も、激しい揺れに襲われました。震度7、M7.6の能登半島地震です。翌日には羽田空港で被災地に向か

う海上保安庁機と日航機との接触、炎上事故が起き、テレビの前から離れられなくなりました。不穏な、心痛む年明けです。

能登から届くニュースに触れながら、1995年1月の阪神・淡路大震災を思い返しました。大阪在勤の社会部記者だった私は、発生の1月17日に現場入りを命じられ、5月の連休明けまで被災地で取材にあたりました。そのときに見た避難所の光景が、29年たつてなお、3.11の東日本大震災から13年を経てなお、同じように繰り返されていることに愕然としました。深刻な被災状況を前に、岸田文雄首相も馳浩・石川県知事も、どこか緊張感を欠いているように思えました。被災者の姿が見えないのか、首相が大事にしてきたはずの「聞く力」が弱かったのか……。

裏金疑惑が報じられているさなかの昨年暮れ、国立大学法人法の「改正」案が可決、成立しました。大学関係者らから「学問の自由」や「大学の自治」を脅かし、研究力や教育力への影響もあると懸念する声があがり、国立大学協会も危惧を訴えました。しかし、ここでも「聞く力」は発揮されませんでした。一定以上の規模の国立大学5法人（他大学も承認を受ければ設置できる）に、強い権限を持つ「運営方針会議」の設置が義務づけられました。委員は文科相が承認し、学長が任命するそうです。「大学の中期目標や計画、予算や決算を決め、それに基づいた運営でない場合、学長に改善を要求できる」とされ、学長選考に関して意見を述べることも可能といえます。

法案の審議・成立時の盛山正仁文科相は、懸念

の声を「指摘はあたらない」とはねつけました。方針会議の委員の承認は「形式的」なものだと答弁していますが、菅首相（当時）による日本学術会議の任命拒否問題を思い起こした人は少なくないでしょう。年明け、盛山氏が世界平和統一家庭連合（旧統一教会）側との事実上の「政策協定」にあたる推薦確認書に署名していたことが発覚。

「記憶にない」「サインしたかも」「失念」と答弁は迷走しました。運営方針会議をめぐるご自身の答弁の記憶はどうなるのか、不安になります。

法案の導入は20年前に遡ります。2004年の国立大学法人化で、大学は学長と学長が任命する副学長や学外者による役員会が運営し、学外者を含めた教育研究評議会と経営協議会が学長の諮問に応じるとされました。学長の選任はこの評議会と協議会の代表からなる学長選考会議が担います。国はトップダウン型のガバナンス改革を大学に求め、学内選挙によっていた学長の選出はいま、「学長選考・監察会議」に委ねられています。教職員の投票は「意向調査」となり、投票結果と異なる候補者が「選考会議」で学長に決定される事例が東大や筑波大をはじめ各地で相次ぎました。中山学長の死去にともなって学長選挙が実施された千葉大学でも、同様の問題が起きました。学生たちは推移をどんな思いで見つめているのでしょうか。大学の「聞く力」と「説明力」が問われています。

大学にガバナンス改革を迫る一方で、国は国立大学の運営費交付金を削減してきました。未来の人材を育むべき大学が「稼ぐ」ことを求められ、厳しい経営を強いられていることも気になります。このたびの法改正で新設された「運営方針会議」と、先の法人化で導入された教育研究評議会や経営協議会とはどんな関係にあるのか。法改正の付帯決議に「学長選考・監察会議や経営協議会などの既存の組織との役割の違いを明確にし、現場に混乱を生じさせることなく、国立大学の競争力強

化に資するガバナンス体制となるよう、制度の周知徹底を図ること」とありました。組織の整理もつかないまま法案を通し、つじつま合わせを現場に押し付けたように見えます。

運営費の削減ばかりが原因ではなく、円安も加わったのこのことのようにですが、本学でも「電子版の学術雑誌の海外分の購読料が負担となり、600タイトル以上が購読中止を強いられる状況で、研究活動への影響も懸念されている」という報道がありました。用途を明らかにしないまま使える政策活動費を5年間で50億円近く受け取っていた元自民党幹事長の側が、3年間で約3500万円の書籍代を支出していたことがわかり、大きなニュースになりました。自らを礼賛する著書など17種、計2万7700冊を買って配ったそうです。原資には税金が含まれています。直接比べるべきものではありませんが、公立図書館の資料等購入費は1館あたり823万円（2021年度）にすぎず、その規模の大きさは突出しています。せめて、将来を担う人材への投資を大切に考える政治であってほしいと切に願います。

今年、千葉大学は創立75周年を迎えます。歴史ある他学部と比べれば、まだ「若い」法政経学部ですが、横断的にさまざまな領域の研究に触れることができる当学部の特色を生かして、多彩な人材が輩出しています。同窓会は会員のみなさんが人脈を広げる場であり、現役の学生さんにとっては将来を考えるうえで有意義な情報交換の場でもあります。大学と連携しながら、さらに魅力的な同窓会に育てるべく知恵を絞り、理事、事務局のみなさんとともに、これまで以上に「聞く力」を磨いてまいります。ご提案もお待ちしています。

新年度も引き続きお力添えを賜りますよう、よろしく申し上げます。

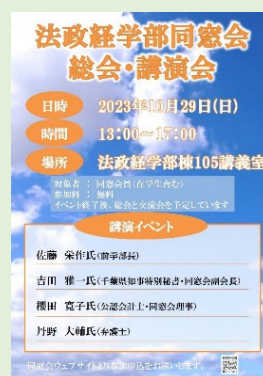
## 令和5年度 同窓会総会・講演会を開催しました



2023年10月29日(土)に法政経学部同窓会を開催いたしました。今年度も前年度に引き続き、対面とオンライン併用での開催となりました。審議事項については令和4年度決算、令和5年度予算案について審議され、原案の通り承認されました。さらに報告事項として同窓会ホームページの「在学生の皆様へ」ページの運用状況について、同窓会ボランティアについての報告がありました。

また、今年度は新たな試みとして同日総会前に卒業生による講演会を開催いたしました。内容としましては、まず「法政経学部の古今」と題して前・法政経学部長である佐藤栄作先生に講演いただき、その後「同窓会員が語る私の歩み」として千葉県知事特別秘書の吉田雅一氏、公認会計士の櫻田寛子氏、弁護士の方々にご自身の学生時代やキャリアについて講演いただきました。

1～3年生の現役学生が対面、オンライン共に参加し、中には講演後に講師を務められた先輩方に直接質問をする学生も見受けられました。



学内及びホームページに掲載したポスター

同窓会としては、このような現役の学生に向けた催しを今後も積極的に開催できればと考えております。ご意見、ご要望等ありましたら、同窓会までぜひご連絡いただければ幸いです。

## キャリア形成支援情報提供サービスについて

在学生に向けたサービスとして、同窓会ウェブサイト上に卒業生の体験談やメッセージを掲載する『同窓会の先輩方からの在学生の皆さんへのメッセージ』を掲載しています。

ここでは有志の同窓会員に協力いただき、在学生へのメッセージとしてご自身のキャリアや学生時代のエピソードを掲載しています。

1年次の学生には所属するコースの選択の参考に、2年次以降の学生にも自身の就職先や進路について考える際の一助になればと考えています。

メッセージは今後も募集しておりますので、もし提供いただける方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局まで是非ご連絡ください。



[ホーム](#) > [同窓会の先輩方からの在学生の皆さんへのメッセージ](#)

このページでは先輩方の体験談やメッセージ

(① 自身の仕事 ② 自身の仕事の紹介 ③ 自身の業界へ興味がある在学生の皆さんへのアドバイス) を掲載しています。

1年次の皆さんは所属するコースの選択に際して参考にする情報としてご参照ください。

2年次以降の皆さんも、自身の将来のキャリア形成・進路を考える上で参考にしてみてください。

また、質問等がある場合には同窓会事務局へメールでお問い合わせください。

ご質問をメールでお送りいただく際には、どの先輩に対する質問かが分かるように、対象のイニシャル(または氏名)・卒年・学部・コース(または学科)を明記してください。

なお、先輩方にはボランティアでご協力いただいております。お忙しい場合には回答が得られないこともありますこと、予めご了承ください。

※質問は在学生の方に限定させていただきます。

人文学部 法経学科 1979年(昭和54年)卒 <b>大久保 壽一</b>	人文学部 法経学科 1982年(昭和57年)卒 <b>渡辺 雅隆</b>
法経学部 法学科 1988年(昭和63年)卒 <b>佐藤 栄作</b>	法経学部 経済学科 1998年(平成10年)卒 <b>櫻田 寛子</b>
法経学部 経済学科 2008年(平成20年)卒 <b>大勝 健司</b>	法経学部 経済学科 2011年(平成23年)卒 <b>三富 悠紀</b>

## 祝・司法試験合格！



2010年 法学科卒

2013年 専門法務研究科修了

丹野 大輔

2023年11月25日、千葉大学専門法務研究科（ロースクール）主催の「令和5年度司法試験合格者のための合格者祝賀会」が催されました。合格された方々、本当におめでとうございます。合格後は、2024年3月下旬から1年間の司法修習が始まり、裁判所、検察庁、弁護士事務所を回って実務を学び、進路を決定していくこととなります。



令和5年度司法試験合格者

令和5年度司法試験は、全受験者数3,928名、最終合格者数1,781名、最終合格率45.34%という結果であり、千葉大学ロースクールは、受験者数63名、最終合格者数13名、最終合格率20.63%という結果でした。

令和4年度は20.83%（全受験者合格率45.52%）という結果であり、合格率はほぼ横ばいでした。

今年度の司法試験から、法科大学院3年次での在学中受験が可能となり、それに伴い試験日程が5月上中旬から、7月上中旬に変更となり

ました。また、学部で法曹コースに進学した場合に、学部3年、ロースクール2年で司法試験受験資格を得られるように制度改正がされましたが、その法曹コース進学者が受験する最初の年でした。

今年度の合格者の中にも千葉大学の法曹コースに進まれて、ロースクール在学中受験で合格された方がいらっしゃいました。

このように司法試験については目まぐるしい制度変更が行われており、受験者の空白期間や経済的負担を極力減らすことにより、司法試験の人気低下に歯止めをかけようとしています。

なお、法科大学院を経ないで受験資格を得られる予備試験の合格者の司法試験最終合格率が令和5年度は92.6%であり、このことから法科大学院での学習内容と司法試験合格率との間に有意な関連性を見出せておらず、法科大学院は苦しい立場に置かれています。

筆者は平成26年度司法試験に合格しましたが、当時から法科大学院では法曹になった後のことを見据えたプロセス重視の教育を提供しているのであり司法試験合格が目標なのではない、と言われていました。当の受験生としては、そんなこと言ってもこっちは死活問題なんですけど、いい歳して無職職歴無しなんですけど、受からなかったら奨学金●●●万円の返す当てが無いんですけど、などと考えていました。

確かにロースクールの授業だけきちんと受けていても司法試験には受かりません。司法試験

対策が別途必要です。現役ロースクール生にはこのことを強調しておきます。とはいえ、法科大学院で学ぶ法的思考プロセスについては、実務に出てから極めて重要であると感じていますし、ロースクールの授業で培った土台の上で司法試験対策をしっかりと行えば、合格はかなり近くなると考えています。上手くバランスを取って、勉強の時間配分をやりくりしていただければと思います。

ところで、先日筆者は、法政経学部の学生に弁護士の魅力について講演する機会をいただきました。その際に最近の法政経学部の難易度は上昇しており、学部生も優秀だと伺いました（便乗するようで恐縮ですが、卒業生として何だか嬉しく、誇らしく思いました）。



令和5年度同窓会イベントにて

少しだけ弁護士業の魅力についてお話させていただくと、自分が手を差し伸べたいと思う人を手助け出来、裁量をもって自由に仕事が出来、広範な活動も出来る弁護士という仕事は非常に魅力的で、就いて良かったと本当に思います。避けがちな話題ですが職業選択にあたって重要なファクターですので忌憚なく申し上げます、経済的にも高収入であることが多いです（完全に私見です）。

司法試験合格後には、弁護士以外にも、裁判官、検察官の途もあり、企業内弁護士（インハウス）、任期付き公務員になる方もいらっしゃいます。

その上で、司法試験を取り巻く状況は上記のとおりであり、受験方法の選択肢が増え、リスクヘッジもしやすくなっています。法曹界に興味や魅力をお持ちいただけたら、学部生には是非進路選択の一つとして考えてもらいたいと思います。

最後に合格者の方々へ、合格してから修習を終えるまでの期間を充実したものにしてください。要件事実や事実認定の勉強だけでなく、旅行やレジャーも楽しんでください。実務に出からは中々まとまった時間を確保することが難しいので。

そして、実務に出てからようやく皆さんの真価の発揮のしどころです。きっと良い未来が待っていると思いますので、実務で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

## 千葉大で学んだ音楽家たち

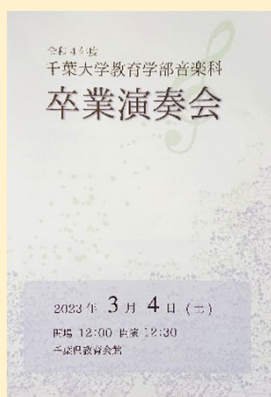


1993年 法学科卒

越川 剛

2023年3月4日、教育学部音楽科が主催する卒業演奏会が千葉県教育会館で開催され、足を運んでみました。私は音楽の演奏に関しては全くの素人なのですが、聴いていて「レベル高いな。」と素朴に感じました。

学生たちにはこれまで千葉大学で学んできたことやそこで培った人脈等を活かして、明るく眩しい未来に向かって羽ばたいて行って頂きたいと思いました。



演奏者は音楽科の学部生、院生（修士課程）のそれぞれ最上級生だったのですが、本演奏会は正に彼等にとってこれまでの学生生活において学んできたことの集大成を披露する総決算の場であり、各演奏（各々の研究成果発表）が終わる度に、割れんばかりの大きな拍手の中、「出し切った感」がひしひしと伝わってきて、とても心地よい時間を過ごさせていただきました。

演奏会終了後、来て良かったという気持ちと、学生の若さと勢いから知らず知らずのうちに大きなパワーをチャージされたという感覚が残りました。学生の進路は大学院（学部生は修士課程、院生は博士課程）への進学、小中高教師の他、民間企業や公務員に就職する方々も少なく、多岐に渡っているということです。



当日の様子

## 会員の皆様からの寄稿を募集しています

同窓会事務局では、会員の皆様からの寄稿を募集しています。学生時代の思い出、現在の活動、夢や目標など何でも結構です。皆様からの心温まるエピソードをお待ちしております。



## 日本の伝統文化を伝える人々との出会い



1988年 法学科卒

中田 尚子

伝統文化を伝える人々との出会いについて、お話を聞く中で、感じたことや思ったことを書き綴ります。

### 日本のことを知らない自分

私がアメリカで留学生生活を始めたのは、2003年夏。海外生活への期待と興奮は、大学院の新学期が始まるとすぐに、後悔と不安に変わりました。宿題の多さと、英語との格闘、そして、異国での慣れない生活。アメリカの文化習慣の中、留学生とのコミュニケーションを通じて、自分の根底にある価値観が試される日々。否応もなく自分が日本人であることを意識させられる出来事を経験してゆきます。

その後、無事大学院を卒業し、就職のためにカリフォルニアに移った頃、ある日本好きの高校生で、スポーツジムで働くアレックス君に出会います。彼はこう言うのです。「Naoko、日本の大工は凄いんだ。カンナを引いて使うから、彼らのお腹の筋肉は凄いんだ。でも、アメリカの大工は、カンナを押しから手の筋肉だけしか使わないんだ。」

アメリカの高校生に、日本の大工の凄さを教えてもらったのです。そのスポーツジムでは、「ブラジリアン柔術」から「受け身」という概念を習いました。自分が日本のことを何も知らないという気持ちが湧き上がったのです。

2007年に帰国した後は、日本のしきたり、嗜み、礼儀作法、神々、日本の歴史と本を読み漁ったものです。「合気柔術」という武術を習

い、日本伝統継承者協会の講座で流儀を守る人々に出会いました。小笠原流礼法、江戸千家茶道、会社の華道部（宏道流華道）、和泉流狂言のお稽古を通じて、「日本と言う国の魅力にはまってゆく」自分を感じてゆきます。まるで、外国人が日本に興味を持つように。

### 日本文化は、引き算

「西洋文化は、足し算。日本文化は、引き算」という言葉を耳にします。これは、本能的を得た言葉だと思えます。四條司家第41代当代四條隆彦氏のお話を聞いたことがあります。「日本料理は、素材以上の味付けをしない。西洋料理や中華料理は、素材以上の味付けをする」という話が印象的でした。

そういえば、日本の評価方法を考えてはいかがででしょう。100点から減点主義の傾向があり、西洋の褒めて足してゆく評価とは異なります。話は逸れるかもしれませんが、「押してダメなら、引いてみな」と言うように、「引く」という発想が日本にはあります。日本の家屋には、引き戸と言うものがありますが、西洋の家屋では、引き戸と言うものはほとんど見られません。

### 五感で理解する

最近、「五感」という言葉をよく耳にする一方で、スマホなどの普及で、目や耳を使うこと、つまり、視覚や聴覚を使うことが多くなりました。

志野流香道第20世家元嫡男蜂谷宗苾（はちや

そうひつ)氏は、五感の一つ嗅覚の重要さを強調されました。鎌倉幕府を開いた源頼朝公以来、流鎗馬の伝統を守る小笠原家。流鎗馬神事では、その昔、決められた合図のもとに静けさの中淡々と神事が行われ、言葉だけに頼らずに物事を進めていたようです。

また、柳生新陰流22世宗家柳生耕一(やぎゅうこういち)氏によれば、柳生新陰流のお稽古は、掛け声が伴う型稽古以外は、静けさの中で行われるそうです。江戸千家第10代家元後嗣川上博之氏は、「言語化が難しい部分をどう伝えてゆくか」という課題に取り組んでいると言います。言葉以外の手段を十分に生かして、日本の伝統文化を伝えているようです。

## グローバル化の中で

世界中のさまざまな文化習慣を背負った人々と仕事をするには、決して簡単ではありません。言語の問題は勿論ありますが、それ以上に異なる価値観をベースとした考え方の中で、こちらの主張を伝え、どうやって合意を引き出すか。これはとても難しいことです。自分の言いたいことを相手に冷静に伝え、相手の言い分にも耳を傾けることが、とても大切と考えています。強い主張を前に、自分の主張が揺らぎそうになることが何度もあります。この課題を克服するためには、日本の文化を正しく理解し、自分の骨となるものを持つことが必要と思うようになりました。



下鴨神社流鎗馬

柳生新陰流22世宗家柳生耕一(やぎゅうこういち)氏に、こんな質問を投げかけたことがあります。柳生耕一氏は、お仕事でアメリカ駐在のご経験がある方です。「柳生新陰流兵法の稽古を続けていて、海外でお仕事をする中で役立つと思われたことはありますか、それは、何でしょうか?」と聞いたところ、「自分は、いつも日本刀を腰につけていると思います、仕事をしていました」とお答えになりました。

私流に解釈しますと、「日本刀を腰につけている」つまり、自分の拠り所をしっかりと持って仕事をする中で、相手に引けをとらない仕事ができる、ということでしょうか。

皆さんが、世界の人々と働く上で、大切にされている拠り所は何でしょうか?



北畠神社(三重県)で行われた柳生新陰流兵法演武

### <参考>

小笠原弓馬術礼法

[www.ogasawara-ryu.gr.jp](http://www.ogasawara-ryu.gr.jp)

江戸千家ホームページ

<http://www.edosenke.jp>

四條司家食文化協会

<http://www.shijotsukasake.jp>

志野流香道松陰会

<http://www.shinoryushoinkai.net>

柳生新陰流兵法

<http://yagyu-shinkage-ryu.jp>

## 秋の交換留学フェア



千葉大学では「千葉大学グローバル人材育成プラン・ENGINE」を掲げ、学部・大学院生全員の海外留学を原則必須とし、学生が安心して留学できるよう、プログラムや支援体制を強化しています。

千葉大学の広報サイト「ちばだいプレス」では、学内で行われた「秋の交換留学フェア」の様子が掲載されています。



当日は法政経学部からマレーシアのサラワク大学へ留学した梶野幹太さん（左）と英国のキール大学へ留学した高橋麻菜美さん（右）が登壇しました。



掲載URL（前編）



掲載URL（後編）

## 千葉大ビールプロジェクト



「千葉大ビールプロジェクト」は、理学研究院の萩原学先生が発起人となり2021年から始まった学内プロジェクトです。

「ちばだいプレス」では、プロジェクトに参加した法政経学部の伊藤怜さん（左）のインタビューが掲載されています。



掲載URL

## 2022年度に退職された先生

研究部門	教員名	担当講義※
法学	金原 恭子（きんぱら きょうこ）教授	英米法Ⅰ・Ⅱ
法学	林 陽一（はやし よういち）教授	法学特別講義（犯罪各論）、応用刑法Ⅰ
法学	横田 明美（よこた あけみ）准教授	行政法Ⅰ、環境法、行政法演習Ⅱ
経済学	内山 哲彦（うちやま あきひこ）教授	原価計算論Ⅰ・Ⅱ、管理会計論
経済学	善積 康夫（よしづみ やすお）教授	簿記原理Ⅰ・Ⅱ
経済学	関根 篤史（せきね あつし）講師	入門基礎マクロ経済学、中級マクロ経済学
経済学	米倉 頌人（よねくら しょうと）講師	計量経済学Ⅰ

## 2023年度に着任された先生

研究部門	教員名	担当講義※
法学	荒木 泰貴（あらかき たいき）准教授	法学特別講義（犯罪各論）、応用刑法Ⅰ

※ シラバス検索システム（2022年度・2023年度）による

## 千葉大学の1年

- 2023年 4月 「情報・データサイエンス学部」の新設を発表
- 2023年10月 柏の葉スマートシティにて日本初、電気自動車への走行中給電の公道実証実験を開始
- 2023年11月 中山俊憲学長がご逝去

詳しくは、千葉大学ホームページの「プレスリリース」をご覧ください。

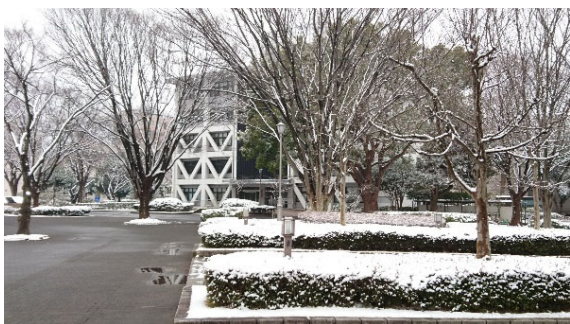
<https://www.chiba-u.ac.jp/about/publicity/press/index.html#headline-1704761134>



## 同窓会役員紹介

会長	渡辺 雅隆	(1982年卒・人文学部)
副会長・理事	吉田 雅一	(1979年卒・人文学部)
理事・顧問	佐藤 栄作	(1988年卒・法学科)
理事	尾形 健	(1996年卒・法学科)
理事	櫻田 寛子	(1998年卒・経済学科)
理事	南 友美子	(2006年卒・法学科)
理事	永見 慶子	(2007年卒・法学科)
理事	石見 元太	(2013年卒・法学科)
理事	橋本 祥一郎	(2020年卒・法政経学科)
監事	大久保 壽一	(1979年卒・人文学部)
監事	大勝 健司	(2007年卒・経済学科)
顧問	金原 恭子	(元法政経学部長)

## 表紙の写真



### ●西千葉キャンパスの事務局棟の様子

1993年 法学科卒の越川剛様から提供  
いただきました。

発行 千葉大学法政経学部同窓会

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

E-Mail : [chiba.houseikei.dousoukai@gmail.com](mailto:chiba.houseikei.dousoukai@gmail.com)

\*をアットマークに変更